



三重の力を世界へ

地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す。
～ 人と自然の調和・共生の中で ～

H24.3 環境・情報科学館

三重大学 財務報告書 2011

第8期事業年度

平成23年4月1日～平成24年3月31日

平成23年度決算の主な特徴

新病院開院

資産UP

平成19年度から始まった工事も平成23年7月に完成し、平成24.1月に開院することができました。
鉄筋コンクリート造(40,650㎡) 12階 病床数685床 個室率30%

一般管理費率の減少

業務費に占める一般管理費の割合は前年度約3.6%に比べ約3.0%に減少しました。

環境・情報科学館

資産UP

世界一の「環境先進大学」を目指し、低炭素化社会の構築・形成過程を三重から日本、世界へ発信する中心施設です。
鉄筋コンクリート造 3階(2,173㎡)

減損損失等による初の当期総損失

今後使用しないと決定した旧病院の東病棟等を減損損失として計上しました。
これが大きく影響し「当期総損失」となりました。

動物実験施設改修

資産UP

実験動物を用いた先端の生命科学拠点の再整備を行いました。
北棟:鉄筋コンクリート造 3階(1,990㎡)
南棟:鉄骨鉄筋コンクリート造 6階(3,410㎡)

本学の会計方針の変更

看護学生奨学金の会計処理を採用費計上から長期貸付金及び返還免除引当金計上に変更いたしました。

平成23年度財務諸表

(単位：百万円)

財務諸表	情報の種類	科目等	平成22年度	平成23年度
貸借対照表	大学の財政状態	資 産	73,700	80,074
		(うち固定資産)	(59,066)	(68,385)
		負 債	40,325	45,496
		(うち借入金)	(19,603)	(26,348)
損益計算書	大学の業務活動	純 資 産	33,376	34,578
		費 用	34,480	37,964
		(うち人件費)	(18,161)	(18,919)
		収 益	35,743	37,794
利益の処分(損失の処理) に関する書類	利益発生要因	(うち運営費交付金収益)	(11,640)	(12,718)
		損 益	1,263	170
		当期総利益 (当期総損失)	1,263	170
キャッシュ・フロー計算書	大学の資金の流れ	(うち積立金)	(454)	(170)
		(うち目的積立金)	(809)	(0)
		業務活動	2,317	4,631
		投資活動	(7,786)	(13,275)
業務実施コスト計算書	国民の皆様の負担額	財務活動	4,811	6,179
		資金期末残高	8,129	5,664
決算報告書	収入・支出の状況	実 施 コ ス ト	13,702	15,718
		収 入	44,318	47,993
		支 出	42,906	47,615
		収 支	1,412	378

1 附属病院、環境・情報科学館等の完成による固定資産の増

2 新病院建設に必要な借入金の増

3 附属病院収益、運営費交付金収益の増

4 減損損失等による経常損失の計上

貸借対照表

Balance Sheet

TOPICS

●資産は前年度比64億円増の801億円
教育・研究・診療をより活発にするため大幅な設備投資を行った。

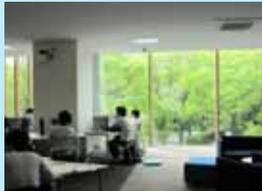
(単位：百万円)

新病院開院 (H24.1開院)



建物等 約 159.0億円
機械備品 約 56.6億円
(病院情報管理システム他)

環境・情報科学館 (H24.3完成)



建物等 約 4.4億円
機械備品 約 0.6億円

動物実験施設改修 (H24.3完成)



建物等 約 8.0億円
機械備品 約 0.5億円

	平成22年度	平成23年度
資産の部		
(固定資産)	59,066	68,385
土地	11,976	11,976
建物等	22,704	38,864
機械備品	6,922	10,821
図書・美術品	4,123	4,150
船舶	1,823	1,667
建設仮勘定	11,182	397
その他	14	12
無形固定資産	119	87
投資その他の資産	200	407
(流動資産)	14,634	11,689
現金・預金	9,328	7,163
未収金	4,634	4,061
(未収入学金)	(30)	(40)
(未収附属病院収入)	(2,838)	(3,250)
(その他未収金)	(1,765)	(770)
たな卸(医薬品・診療材料他)	438	443
その他	231	20
	73,700	80,074

建設仮勘定: 22年度比較 約107.9億円
新病院の完成に伴い、建設仮勘定から建物に振替られ大幅に減少しました。

~ MEMO ~

固定資産には減価償却累計額が含まれています。
23年度 減価償却累計額 約42億円
うち建物等 14億円
機械備品 24億円

	平成22年度	平成23年度
負債の部		
(固定負債)	27,576	35,592
資産見返負債	8,742	9,117
借入金	18,577	25,111
リース債務	133	1,221
その他	123	141
(流動負債)	12,748	9,904
運営費交付金債務	156	60
寄附金債務	2,574	2,799
前受受託研究費等	631	650
借入金	1,025	1,237
リース債務	102	354
未払金	7,883	4,450
その他	373	351
純資産の部	33,376	34,578
資本金	17,485	17,485
資本剰余金	10,639	12,011
利益剰余金	5,252	5,082
	73,700	80,074

借入金

23年度新規借入額 約 78億円
23年度末総額 約263億円
23年度償還額 約 14億円
(利子込)

病院建設のため、財務経営センターからの借入額及び償還額を示しています。

未払金

22年度比較 約34億円

毎年、大きな工事の完成や機器類の納入は3月末になり、多額の未払金が発生いたします。
23年度は、病院建物は7月に完成し、医療機器は開院前の12月までに納品完了したため、年度内に多額の支払いが完了し、未払金が減少しました。

資本剰余金 22年度比較 + 約13億円

増額要因: 国から措置された施設費で固定資産を取得 + 約27億円

(病院 約15億円 動物実験施設改修 約8億円)

減額要因: 上記固定資産の使用による資産価値の減等 約14億円

損益計算書

Profit and Loss Statement

TOPICS

附属病院収益増により、新病院移転にかかる経費をカバー
旧病棟の減損損失の影響もあり当期総損失に

教育経費

22年度比較 約1.8億円

「研究拠点形成費補助金」などの事業が22年度で完了したため、23年度は平準化したため減少いたしました。

研究経費

22年度比較 +約1.3億円

動物実験施設改修に伴い、移転費や修繕費、固定資産以外の物品にかかる費用分が増加しました。

診療経費

22年度比較 +約25.0億円

病院移転にかかる経費及び新病院の固定資産にかかる減価償却費が増加いたしました。

また、診療単価の増額に伴い、診療にかかるランニングコスト(医薬品、材料等)も上がりました。

減損損失

新規項目 +2.2億円

新病院開院に伴い、旧病院で使用しなくなる「東病棟他」を取り壊すことが決定したため計上しました。

一般管理費

22年度比較 約1.2億円

光熱水の使用や新規備品の購入、校内美化のための剪定費等を控え、一般管理費の削減を行いました。また、例年に比べ建物等の修繕件数が減少しました。

平成21年度より開始した「看護学生奨学金」を計上しておりますが、23年度より貸借対照表に計上しております。

	平成22年度	平成23年度
費用の部		
経常費用(A)	34,381	37,711
教育経費	1,472	1,295
研究経費	1,416	1,543
教育研究支援経費	370	386
診療経費	9,960	12,460
受託研究等経費	1,459	1,623
人件費	18,161	18,919
(うち教員)	(9,929)	(10,469)
一般管理費	1,200	1,077
財務費用	343	407
(B)-(A)		
経常利益 (C)	1,334	25
臨時損失(D)	99	253
減損損失	0	215
固定資産除売却他	99	38
(C)+(E)-(D)		
当期総利益(損失)	1,263	(170)
	35,743	37,794

(単位：百万円)

	平成22年度	平成23年度
収益の部		
経常収益(B)	35,715	37,736
運営費交付金収益	11,640	12,718
授業料等収益	4,101	3,770
附属病院収益	15,708	16,796
受託研究等収益	1,458	1,639
寄附金収益	494	543
財務収益	15	10
補助金等収益	981	629
施設費収益	102	104
資産見返負債戻入	706	902
雑益	511	625
臨時利益(E)	28	58
資産見返	7	13
その他	21	45
	35,743	37,794

12 運営費交付金収益

22年度比較 +約10.8億円

新病院移転に伴い、移転費などが特別要因として増額記分されました。

附属病院収益

22年度比較 +約10.9億円

高度な診療の提供により患者1人あたりの入院・外来診療単価が高くなりました。移転直前まで高い患者数を維持し、移転後も素早く患者数が復帰できたことも要因です。

新病院では差額ベッドの増加により、一層の収益増が期待出来ます。

補助金等収益

22年度比較 約3.5億円

補助金で取得した固定資産以外の合計額になります。固定資産の取得の割合が高く、前年度より減少しております。

補助金交付額(うち固定資産取得)
22年度 約15億円(約6億円)
23年度 約17億円(約11億円)

経常利益

23年度実績 +約0.3億円

22年度比較 約13.1億円

主に 診療経費の増加等により、前年度より13.1億円の減少となり、23年度実績では、ほぼ収支均衡の+0.3億円となります。

当期総利益(損失)

23年度実績 約1.7億円

22年度比較 約14.3億円

「当期総損失」を計上しましたが、主に 減損損失の影響によります。

損失の処理に関する書類（案）

(単位：百万円)

当期末処理損失		170
<u>当期総損失</u>	170	
損失処理額		
<u>前中期目標期間 繰越積立金取崩額</u>	170	170
次期繰越欠損額		0

23年度は減損損失の計上等により「当期総損失」が発生しました。

「当期総損失」を計上した際、前期までに積み立てた積立金「前中期目標期間繰越積立金取崩額」から差し引きます。
(会計基準：第70)

財務諸表上

独特な会計処理により、この損失は帳簿上の積立金から差し引くため、翌年度への影響はなくなる
(H24.12文科省承認予定)

キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

項目	内容	平成22年度	平成23年度
業務活動	大学運営で行われる通常の収支	2,316	4,631
投資活動	設備投資(固定資産取得)や資金運用	▲ 7,786	▲ 13,275
財務活動	設備投資の借入や返済額	4,810	6,179
資金期末残高		8,129	5,664

TOPICS

近年は新病院の再整備に伴い積極的に設備投資を行っています。
また、設備投資に伴い借入額も増加しております。

業務実施コスト計算書

Q：業務実施コストとは？

A：大学業務の実施に必要な経費のうち、税金で負担してもらっている額を示したものです。

(単位：百万円)

項目	内容	平成22年度	平成23年度
大学運営に必要なコスト	教育研究、診療経費、人件費等	34,480	37,964
自己収入	授業料、病院、寄付金収入等 (主に運営費交付金を除く)	22,495	23,572
その他	減価償却費の控除等	1,717	1,326
業務実施コスト		13,702	15,718

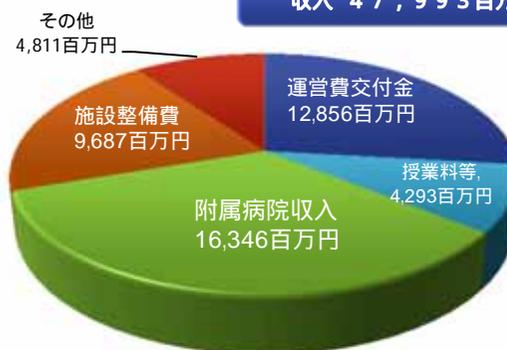
TOPICS

23年度は病院の移転にかかる経費等により、通常より負担額が増加いたしました。

決算報告書

	平成22年度	平成23年度
収入	44,317	47,993
(主な収入項目)		
(運営費交付金)	(11,865)	(12,856)
(附属病院収入)	(15,318)	(16,346)
(授業料等)	(4,320)	(4,293)
支出	42,905	47,615
(主な支出項目)		
(教育研究経費)	(2,132)	(2,292)
(人件費)	(17,540)	(18,316)
(診療経費)	(8,851)	(10,855)
収支	1,411	378

収入 47,993百万円



支出 47,615百万円



TOPICS

収入は病院収益や運営費交付金の特殊要因経費等（移転費）が増加しました。
支出は、病院移転費や病院収益の増にかかる医薬品・材料の増で診療経費が増加しました。